

# 南スーダンPKOは 事実上の“戦地派兵”だ!

## 憲法こわすな!直ちに撤退を!



暴徒役(実際には南スーダン人)を武装した装甲車と盾を使って排除する「駆け付け警護」の訓練。  
(毎日新聞 2016年10月25日より)

### ●「戦争への一步」を踏み出した安倍政権

安倍政権は、南スーダンPKO(国連平和維持活動)に派兵する陸上自衛隊に、戦争法に基づく「駆け付け警護」「宿营地共同防衛」の新任務を与える閣議決定を行いました(11月15日)。これらの新任務はこれまで憲法で「武力行使にあたる」と禁じられてきました。しかし安倍政権は、戦争法の施行により「PKO5原則」を前提に、海外での武器使用を解禁。侵略戦争への深い反省から生まれた平和憲法の理念を根本からくつがえしたのです。

11月19日、陸上自衛隊青森駐屯地で開催された壮行会で稲田防衛相は、「自衛隊の歴史の中で新たな一步となる」と訓示。不安と緊張に包まれ見送る家族を後に、350人の自衛隊員が事実上の『戦地』に派兵されたのです。

### ●南スーダンは内戦状態

政府は、自衛隊の活動地域を「(首都)ジュバ及びその周辺地域」に「限定」しているから大丈夫。「衝突」が生じていても「戦闘行為」は発生していないとの立場をとっています。大うそです。7月に起きた政府軍と反政府勢力による大規模戦闘では、PKO部隊や多数の市民を含む300人以上が死亡。PKO部隊からも死亡者を出しました。自衛隊宿营地の隣にあるビルでも銃撃戦が起き、日本のJICA(国際協力機構)の車両も被弾。機関銃どころか、戦車や迫撃砲、武装ヘリによる本格的な戦闘が実際に行われているのです。

南スーダン政府のルエス情報相は、「国連宿营地の門の近くで(政府軍の)装甲車両2両が国連部隊に破壊され、政府軍は国連部隊に応戦した(11月4日朝日新聞)」と証言しました。政府の現職閣僚が、政府軍とPKO部隊との交戦を認めたのです。事態の悪化に国連安保理事会は、8月にPKO部隊による先制攻撃を容認する決議を採択。11月14日には、潘基文国連事務総長が「暴力行為はさらに深刻化する。どん底の崖っぷちにある」と述べています。PKO法上の前提となる「停戦合意」も「中立的立場」も既に失われ、南スーダンは内戦状態にあるのです。

### ●憲法改悪の先取り・既成事実をつくる

戦場に「限定」された地域などありません。武力行使は必ず戦死者を伴います。

危険な状況であっても安倍首相が新任務にこだわり派兵するのは、自衛隊に海外で武力行使させ、憲法改悪の先取り=既成事実をつくるためです。政治利用のために、自衛隊員に「命を差し出せ、生き残りたければ人を殺す軍隊になれ」と命じているのです。

時事通信世論調査(11/10~11/13)では、南スーダンPKO「駆け付け警護」の新任務付与に『反対47.4%』と『賛成28.2%』を大きく上回りました。真実を上げ派兵反対世論を圧倒的多数へと変え、自衛隊を直ちに撤退させていきましょう!



南スーダンPKOに陸上自衛隊先発隊が出発。家族らに見送られる隊員。(産経フォト 2016年11月20日より)

### ●平和と民主主義をめざす全国交歓会(ZENKO)●

<http://www.zenko-peace.com/> Email: zenkoweb@gmail.com

〒536-0016 大阪市城東区蒲生1丁目6-21 LAGセンター内

TEL(携帯): 090-8536-3170(山川) / FAX: 06-6931-0277

# 南スーダンとジブチから 自衛隊は即時撤退すること！ 政府に緊急抗議の電話・FAXを送ろう！

## ●抗議先

首相官邸…TEL:03-3581-0101(代表)

内閣府…FAX:03-3581-3883/TEL:03-5253-2111(代表)

国際平和協力本部事務局…FAX:03-3581-0824(直通)/TEL:03-5253-2111(代表)

防衛省…FAX:03-5261-8018/TEL:03-5366-3111(代表)

自民党本部…FAX:03-5511-8855/TEL:03-3581-6211(代表)

内閣総理大臣 安倍晋三 様

防衛大臣 稲田朋美 様

- 1.南スーダン、ジブチから自衛隊を即時撤退させること。
- 2.南スーダンに対する軍事介入、経済介入を即時中止すること。

安倍政権は、戦争法をもとに自衛隊南スーダンPKO部隊に武力行使を可能とした「駆けつけ警護」「宿営地共同防衛」の新任務を与え派遣を開始しました。

安倍首相は国会で、7月の軍事衝突について「武器をつかって殺傷、あるいは物を破壊する行為はあった」とした上で、「戦闘をどう定義づけるかということについては、国会などにおいても定義がない」「我々は一般的な意味として衝突、いわば勢力と勢力がぶつかったという表現を使っている」と発言。武力衝突であって「戦闘行為ではなかった」と述べました。

これは詭弁です。南スーダンは、政府軍と反政府軍の内戦状態が続いています。政府軍と反政府軍の両派とも住民を殺害しています。7月の戦闘では、自衛隊宿営地から100mしか離れていないビルで銃撃戦が起こり、自衛隊宿営地に銃弾が着弾しています。南スーダン政府のルエス情報相は、政府軍とPKO部隊との交戦があったことも認めています。南スーダンが内戦状態にあること、「PKO5原則」が崩壊していることは明らかです。

安倍政権は、南スーダンの汚職にまみれた政権に経済援助をする一方で石油をはじめとした利権獲得のために自衛隊を送り込んだのです。またジブチの自衛隊海外基地から、すでに軍事物資の輸送を行っています。「駆けつけ警護」や「宿営地共同防衛」の名目での殺人訓練を続けています。

このままでは自衛隊が海外で武力行使を実行し、「殺し殺される」事態となります。憲法9条を破壊する武力行使を許すことはできません。

<私の一言>